

氏 名：荒居 康子

学 位 の 種 類：博士（看護学）

学 位 記 番 号：甲第 249 号

学位授与年月日：2024 年 3 月 8 日

学位授与の要件：学位規則第 5 条第 1 項該当

論文審査委員：主査 亀井 智子（聖路加国際大学 教授）

副査 木下 康仁（聖路加国際大学 教授）

副査 山田 雅子（聖路加国際大学 教授）

副査 天田 城介（中央大学 教授）

論 文 題 目：日本で高齢の親を介護する単身同居の実子が離職し介護を続けるのはなぜか
-批判的实在論を通して-

博士論文審査結果

本研究は、わが国で介護のために離職した単身の実子 15 名を対象として、介護離職という現象を当事者の視点で説明することを目的とし、修正版グラウンデッド・セオリー・アプローチ(M-GTA)を用いた分析、および批判的实在論(CR)を用いた介護離職が生じる社会構造のメカニズムの検討を行った質的研究である。

審査の過程では、テーマの設定、M-GTA による結果と CR をつなぎ合わせた方法論的貢献が認められ、社会の課題があぶり出された読み応えのある論文として高く評価された。

審査委員からは次の点について指摘がなされ、修正が求められた。

1.文章表現について

「工作中的の目のやりくり」「介護の発生を事の発端としている」など、意図が捉えにくい表現がある。また今回は対象者の性別を限定していない中、フェミニズム理論が唐突に記載されているため、これらに詳述が必要である。本研究では対象者を性別や兄弟の有無によって限定していないが、性別による介護への考え方の違いが先行研究で示されているため、その理由を加筆すること。また、「アクター」「エージェント」の意味の違いを再確認すること。

2.介護離職の捉え方について

「介護離職の形態維持モデル」では、根源的欠如に関する説明が「制度・政策」および「規範」の 2 点のみとなっているが、これ以外の要因も多いため、ケアサービス、近隣、兄弟、社会の中での人間関係など中間領域とそれらの相互作用についても論述すること。また、単身介護者の人間像の論述も、偏りなく行う必要がある。

3.考察について

総合的考察の中で、介護離職の根源として社会資源の不足が述べられているが、政策的改善に関してより緻密な考察が必要である。また、医療的側面に関する考察が少ないため、加筆すること。さらに、引用文献が少ないため、適切な先行研究などとの検討を行うこと。離職が虐待につながると誤解につながる論述は修正すること。

4.論文の構成について

文章の重複を避け、議論の文脈を簡潔にして、論文全体の流れを再検討する必要がある。また、M・GTA の分析結果を明確に述べて限定的な一般化を行い完結すること。その上で CR を用いた考察を行うなど、両者の区別と関連を明確にすること。「4 平面社会的存在モデル」の位置づけと表としての修正をはかること。さらに、要旨の校正も修正すること。

これらの指摘に対し、適切に修正がなされたことを審査委員全員が確認した。

以上により、本論文は、本学学位規程第 5 条に定める博士（看護学）の学位を授与することに値するものであり、申請者は看護学における研究活動を自立して行うことに必要な高度な研究能力と豊かな学識を有すると認め、論文審査ならびに最終試験に合格と判定する。